

SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

ゴースト もういちど抱きしめたい

2010年・日本映画
配給/パラマウント ピクチャーズ ジャパン
116分

2010 (平成22) 年 11 月 13 日鑑賞

梅田ピカデリー

Data

監督：大谷太郎

出演：松嶋菜々子/ソン・スンホン
/樹木希林/鈴木砂羽/橋本さとし/芦田愛菜/宮川大輔/黒沢かずこ/松金よね子/樋田慶子/波岡一喜/嶋田久作/温水洋一

👁️👁️ みどころ

恋人の死に涙する可憐なデミ・ムーアと、懸命に恋人との意思疎通を図ろうとするゴースト松嶋菜々子。あなたは、どちらが好き？ありえねえ設定のファンタジーと純愛劇だが、そこには意外なスリルとサスペンスも。『恋と花火と観覧車』（97年）も良かったが、13年後の本作における松嶋菜々子の魅力もなかなかのもの。

この手の映画については、難しいことは何も言わず、その美しさにうっとりできれば、それで十分？

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■ありえねえ設定だが、これも一興？■□■

松嶋菜々子は顔がかわいいだけでなく、スタイルも抜群。とりわけ、足の長さとその美しさがピカイチ。私がそう思ったのは、彼女の映画デビュー作である『恋と花火と観覧車』（97年）を観た時だ。それが13年後の今でも全く変わらないことを実感したのは、松嶋菜々子扮する星野七海が超ミニスカート姿でビル内を闊歩する颯爽とした女社長さんぶりを示すシーン。

映画冒頭、「こりゃ、ポルノ映画？」と一瞬錯覚するような思わせぶりのシーン（？）が登場する。しかし、いくら何でもそんな映画への出演を夫の反町隆史がOKするはずがないのでは？七海の身体はシーツに覆われているものの、美しい足と肩・背中が見えている。そんな自分にはっと気づいた七海は、今なぜ見知らぬ場所で一人ベッドの中に？ベッドから起き出した七海は、コーヒーを準備してくれているキム・ジュノ（ソン・スンホン）の頬をいきなりぶった後、次の会社のシーンへ。

七海は年商150億円という企業の女社長らしい。朝帰りのまま会社へ直行した七海のもとに次々と部下が近づいて指示を仰ぐが、七海はその1つ1つにテキパキと対応。こりゃ、全盛期の豊臣秀吉みたい？朝帰りを察した秘書の上条未春（鈴木砂羽）が巧みに七海をフォローしているが、そのあまりの馴れ馴れしさにちょっとビックリ。こりゃ、何か少し怪しそう？社長室に入った七海は、昨夜の誕生パーティーの後心地よい酔いの中で立ち寄り、はしゃいでいた公園の噴水の前で知り合った青年ジュノとの行動を未春から聞かされるが、何と七海はそれらのすべてが記憶の外。そして、未春の話を書くうち少しずつ思い出していったが……。こりゃヤバイ、いくら何でもこんな設定はありえねえ。そう思ったが、さてよ、これも一興？

■□■よくできたファンタジー！よくできた純愛劇！■□■

ヨーロッパでは、背中に羽をつけた天使が登場する映画が時々ある。9月28日に観た『約束の葡萄畑 あるワイン醸造家の物語』（09年）もそうだが『ベルリン・天使の詩』（87年）は名作中の名作。また、映画という芸術は「この世」と「あの世」の両者をうまくスクリーン上に映し出すことができるから、その手の映画も『きみがくれた未来』（10年）、『椿山課長の七日間』（06年）（『シネマルーム13』284頁）など数多い。しかし、ゴーストと純愛をセットにしたことによって大ヒットしたのが、デミ・ムーアを一躍有名にさせた『ゴースト ニューヨークの幻』（90年）だ。

日本人には馴染みがないが、ゴースト＝幽霊なら昔から映画や落語の世界でつき合っているので馴染みが深く、全く違和感がない。そうしたこともあって、『ゴースト ニューヨークの幻』は日本でも大いに受け入れられたが、柳の下の2匹目のどじょうを狙って日韓の美女美男を登場させたうえ、あえて松嶋菜々子をゴースト役に起用した本作は？私は公開初日の土曜日に映画館で観たが、客席はガラガラ。これでは先が思いやられるが、松嶋菜々子に甘いことを自認したうえで、よくできたファンタジー！よくできた純愛劇！と言っておこう。

■□■霊媒師と少女ゴーストの力を借りれば……。？■□■

前半は淡々とありえねえ純愛劇が進んでいく。年商150億円の企業の女社長が、陶芸家を志して日本にやって来て1年経つ韓国の青年と一瞬にして恋に落ち、そのままスナリ恋愛が進展し、2人だけの結婚式へ、なんて話が現実には成立しえないことは誰でもわかっているはず。しかし、そんなファンタジーだからこそ、幸せの絶頂の瞬間、ひたつくりのバイクによって七海がゴーストになってしまうというファンタジーもOK？さあ、そこから物語はどのように展開していくの？

そんな興味から本作を観れば、本作のキーウーマンは霊媒師の運天五月（樹木希林）と少女ゴースト（芦田愛

業)の2人。本作ではまさに樹木希林の神がかりな芸達者ぶりが見どころだ。オーバーアクション的で、お笑い芸人的な笑いを誘うシーンもあるが、それくらいやらなければ、死者の声が本当に聞こえてくるという霊媒師の役はつとまらないかも……。いよいよ最終回が近づいてきたNHKの大河ドラマ『龍馬伝』では香川照之が一貫して怪演を見せているが、本作では樹木希林の怪演に注目!

もう1人の小さなキラーウーマンが、少女ゴースト。映画中盤、自分の思いやジュノに迫りくる危険を伝えたくても伝えられずイライラするゴーストの七海と同じように、あなたもきくとイライラするはず。そんなイライラを解消してくれるのが、少女ゴーストが教える集中力だ。ゴーストだってヘソの下に力をこめて集中すれば、それ、缶を蹴飛ばすことだって……。そして、それができれば、こんなことも……。あんなことも……?

横浜で開催されたAPECの会場で11月13日にやっと実現した22分間の菅総理と胡錦濤国家首席との日中首脳会談を見ても、生きている人間同士の対話がいかに難しいかがよくわかる。ところが、ゴーストの七海だって少女ゴーストのようにここまで努力すれ



DVD&BD 発売日：2011年5月18日(水) 発売元：バップ
【セル DVD 通常版】 本編ディスク 1 枚のみ/3,675 円(税込) / VPBT-13578
【セル Blu-ray】 本編ブルーレイディスク 1 枚+特典 DVD1 枚 / 6,090 円(税込) / VPXT-71166
 (C) 2010「ゴースト」製作委員会

ば……。そしてまた霊媒師の仲介があれば、いつまでも七海の死を悲しんでいるジュノとの対話だって……。

■□後半は思わぬスリルとサスペンスが……■□

年商150億円の女社長には、何と20億円の遺産があったらしい。また、多額の生命保険がありその受取人は結婚したばかりのジュノになるらしい。しかも、目撃者がいない状況下、七海の死亡の原因は未だ不明のまま。ひょっとしてこりゃ、遺産目当て、保険金目当てにジュノが仕組んだ殺人事件？なんでも疑うのが商売の警察がそう考えたのは当然で、高田刑事（波岡一喜）と阿部刑事（嶋田久作）がジュノから事情聴取を。

他方、誕生日パーティーのために会社を早く抜け、ワイン片手に楽しそうにジュノのものを訪れていた七海のバッグを、バイクで疾走しながらひったくった男は一体誰？これは計画的犯行？それとも、たまたまりッチそうな女を狙ったもの？映画後半は、そんな疑惑から生まれる思わぬスリルとサスペンスが大展開！その中心はバイクの持ち主・黒田竜二（橋本さとし）だが、ゴーストの七海の捜査（？）のおかげで、これが怪しげな事務所を構えるヤクザまがいの男であることが判明。そのうえ、七海の片腕のような存在だった秘書・未春の本性が少しずつ……。なるほど本作はファンタジーと純愛だけではなく、こんなスリルとサスペンスも……。

■□ラストに向けても、松嶋菜々子の魅力を堪能■□

本作前半では松嶋菜々子のファッションリーダー的要素も楽しみたいが、ゴーストになってからの彼女の服装は至ってシンプルだからそれにも注目！韓国語の「サラン」や「サランヘヨ」は、英語の「I LOVE YOU」や中国語の「我愛你」と同じだが、そう言われると、普通は「私もあなたを愛してる」と答えるもの。ところが、本作前半では「愛してるよ」とジュノから何度も言われるのに、その答えは「私も愛してます」ではなく、「わかってる、知ってる」というもの。あんなに幸せの絶頂にいる時、七海はなぜそんな答えに終始したの？それが2人の純愛劇を鑑賞するうえでの前半の1つのポイントだ。

そして、ラストに向けたクライマックス。ある事件に巻き込まれ瀕死の重傷を負ったキム・ジュノは、今生きるか死ぬかの状況だ。そんなジュノと再び向き合い語り合う七海は、ジュノに対してどんな言葉を？『恋と花火と観覧車』で観た松嶋菜々子は、これから世界に向けて羽ばたいていく輝かしくかつ若々しい女性像を等身大で演じていたが、それから13年後の本作ではしっとりとした女性の温かみと母性のたくましさを十分な説得力で演じている。あらためてそんな、松嶋菜々子の魅力を堪能！

2010（平成22）年11月15日記